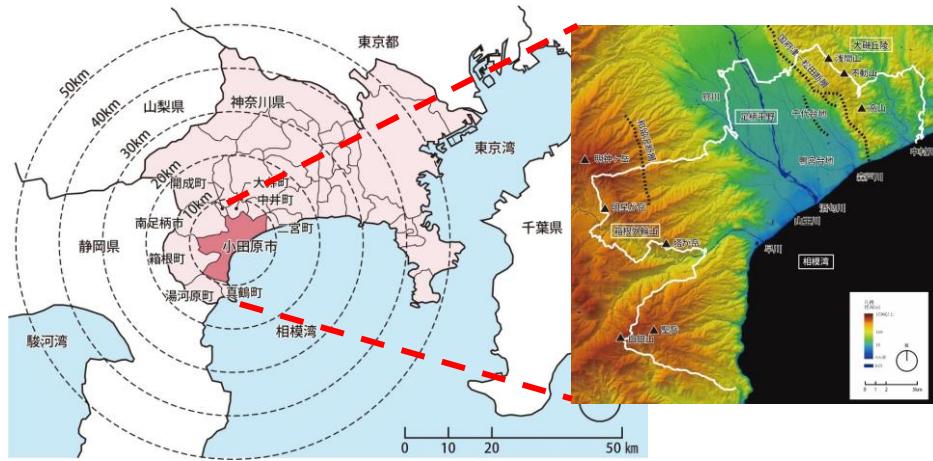


小田原市文化財保存活用地域計画

【計画期間】令和8~18年度（11年間）

【面 積】113.60km²

【人 口】約18.5万人



指定等文化財件数一覧

令和7（2025）年8月現在

類型		国指定 ・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物	0	—	5	11	29	45
	美術工芸品	1	—	2	11	0	14
	彫刻	2	—	7	4	0	13
	工芸品	0	—	1	7	0	8
	書跡・典籍	0	—	0	0	0	0
	古文書	0	—	0	25	0	25
	考古資料	0	—	2	4	0	6
無形文化財	歴史資料	0	—	1	17	0	18
		0	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	—	0	4	0	4
	無形の民俗文化財	1	0	2	4	0	7
記念物	遺跡	3	—	1	11	0	15
	名勝地	0	—	0	0	0	0
	動物・植物・地質鉱物	1	—	4	21	0	26
文化的景観		0	—	—	—	—	0
伝統的建造物群		0	—	—	—	—	0
合 計		8	0	25	119	29	181
152							

指定等文化財は、181件

未指定文化財は、2,400件把握

推進体制

地域のプレイヤーが有機的に繋がり、場合によっては連絡組織を設け、行政も加わり取り組んでいる。

【調査・研究団体】

- ・小田原史談会
- ・小田原の石造物を調べる会
- ・一昔前的小田原の風景写真を整理する会
- ・みんなでお城をつくる会
- ・小田原北条の会 等

【行政】

- ・小田原市役所
文化財課（文化財保護）
文化政策課（文化振興）
生涯学習課（生涯学習推進）
図書館（地域資料公開保存）
観光課（観光振興）
小田原城総合管理事務所（史跡管理）
都市政策課（歴史的風致維持向上）
その他関連課
- ・神奈川県
・周辺自治体 等

【所有者】

- ・小田原民俗芸能保存協会
- ・曾我兄弟遺跡保存会
- ・小田原早川上水をつなぐ会
- ・おだわら名工舎
- ・北條遺跡顕彰会
- ・小田原の城と緑を考える会
- ・小田原城郭研究会
- ・大外郭の会
- ・西さがみ文化フォーラム
- ・自治会
- ・
- ・

【活用団体】

- ・小田原市観光協会（DMO, DMC）
- ・小田原ガイド協会
- ・小田原箱根商工会議所
- ・小田原かまばこ通り活性化協議会
- ・小田原まちづくり応援団
- ・まち歩き実行委員会
- ・交通事業者 等

【専門家】

- ・小田原市文化財保護委員会

歴史文化の特性

1. 山野河海が生んだ多様な歴史文化

市域には、箱根に連なる山々、足柄平野と中央を流れる酒匂川、相模湾などからなる変化に富んだ地形がある。こうした自然環境を活かして人々は多様な歴史文化を重ねてきた。

2. 人や物の往来により生まれた歴史文化

交通上の難所である箱根山は、山越えをする人々をこの地に留めた。古くから東西交流の場であり、近代以降は鉄道の要衝地となつた。

3. 日本史を彩った人物が織り成した、重層的な歴史文化

豊かな自然環境、東西交流の結節点という場、そして温暖な気候に恵まれた市域には、北条氏をはじめとした戦国大名、政財界人や文化人など多くの人々が居住、来訪した。こうした人々の存在と活躍がつくった歴史がある。

4. 日々の人々の生活により育まれた、今につながる歴史文化

山野河海を持つ市域では、豊かな自然を生かしたなりわいが営まれてきた。宿場町でもあった城下町には数多くの職人や商人が集住し、水産加工品や漆器など小田原を代表する多くの伝統産業が生み出された。

将来像	基本的な方向性	課題	方針	措置の例
				暮らしを通してその歴史とともに暮らすまち
先人が築いた歴史とともに暮らすまち	方向性1 文化財への理解を深め、学びをつくる	<ul style="list-style-type: none"> 文化財に関する調査が十分にできていない 文化財の滅失等のおそれがある 収集された文化財が十分に整理されていない 多様な機関で行われている調査・研究の連携に力を入れる必要がある 学校教育との連携による学びに力を入れる必要がある 生涯にわたっての学びの機会づくりに力を入れる必要がある 地域における学びの機会づくりが十分にできていない 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の把握調査及び詳細調査の実施 文化財の滅失等の防止 文化財の収集と整理 調査・研究成果の連携と集約 学校等と連携した文化財の学びづくり 社会教育施設等との連携による生涯学習の充実 地域との連携による学びの充実 	方向性2 措置番号2-6 史跡小田原城跡保存活用整備事業 史跡の本質的価値を具現化するため整備を進め、史跡の保存・活用を行う。 【措置主体】行政 【実施期間】R11～R18 
	方向性2 文化財を市民に身近なものにする	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信が不足している 他分野と連携した情報発信が十分にできていない 文化財に触れる環境が不足している 展示公開施設が充足していない 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な情報発信の促進 他分野との連携や協働による情報発信の促進 文化財に触れる環境づくりの促進 展示公開施設の整備 	
	方向性3 文化財を地域で守る	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の計画的な管理、修理が行われていない 文化財の収蔵施設が不足している 保存への文化財所有者の負担が大きい 災害への備えが十分でない文化財への防災対策が必要である 所有者・管理者の目が届かない文化財等への防災・防犯対策が必要である 災害や犯罪が発生し被害が生じた場合の連絡体制を整備する必要がある 災害で保存に危機が迫る文化財を救済する体制整備が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な管理と修繕の実施 文化財の収蔵施設の充実 文化財所有者の負担軽減 災害への備えの充実 防災・防犯対策の充実 災害・盗難等発生後に迅速に対応できる連絡体制づくり 文化財救済体制の整備 	方向性5 措置番号5-1 小田原民俗芸能保存協会後継者育成補助事業 民俗芸能の保存、普及及び後継者の育成を図るため、小田原民俗芸能保存協会が実施する後継者育成事業（発表会、講座）に対する支援を行う。 【措置主体】市民、行政、所有者 【実施期間】R8～R18 
	方向性4 文化財を活かす活動を育み、広げていく	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動との連携が十分ではない 文化財の公開を支援する必要がある 歴史的建造物等の活用が進んでいない 市民のネットワークが不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財を活かした地域活動の支援 文化財の一般公開の支援 歴史的建造物等の活用の支援 活動団体等のネットワークづくりの促進 	
	方向性5 文化財の保存・活用を支える仕組みを作る	<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能等の後継者が不足している 活動の担い手が不足している 職人等の技術者が不足している 文化財行政における体制が十分でない 広域の連携が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能等の後継者育成の支援 地域における担い手の発掘と活動支援 職人等の育成支援 文化財行政の体制充実 文化財を通した広域連携の推進 	

8つの関連文化財群 と 2つの文化財保存活用区域

関連文化財群1 箱根外輪山がつくる自然と文化

箱根外輪山の山々、足柄平野と中央を流れる酒匂川、相模湾などから形成される変化に富んだ地形をもち、森林資源による木の文化や溶岩・火山碎屑物に由来する石の文化が創り出された。



関連文化財群2 足柄平野が育んだ原始古代からの暮らし

縄文時代の羽根尾貝塚、弥生時代中期に東日本最大級規模を誇った中里遺跡、古墳時代の県下有数の古墳群である久野古墳群、奈良時代の千代寺院跡など、原始から足柄平野での広域的な交流を通して発展した地域社会の様相を今に伝える。



関連文化財群3 曽我物語と鎌倉幕府ゆかりの地

源頼朝が平家方に敗れた石橋山合戦や、富士野の巻狩りで決行された曾我兄弟の仇討ちは、浮世絵・浄瑠璃・歌舞伎などで広く知られ、市域にもゆかりの遺跡が残されており、鎌倉時代の出来事を今に伝える。



関連文化財群4 北条氏による統治と戦国時代の終わりを告げた小田原合戦

北条氏は小田原城を本拠に城下町の整備を進め、関東における政治、経済、産業、文化の中心として繁栄した。小田原合戦に敗れ北条氏は滅亡したが、延長 9 km におよぶ総構や豊臣秀吉が築城した石垣山は、戦国時代の姿を今に伝える。



関連文化財群5 近世小田原城と城下町・宿場町

小田原合戦後、要衝であった小田原城には、主に大久保氏をはじめとする譜代大名が封ぜられた。江戸時代には城下町・宿場町として賑わいを見せ、関連する文化財も数多く残る。



関連文化財群6 二宮尊徳と報徳仕法

旧柏山村の中流農家に生まれた二宮尊徳は、生涯を通して飢餓などで荒廃した農村の復興に力を注いだ。その手法は「報徳仕法」と呼ばれ、後継者により全国に広まり、仕法の基礎となる思想は地域住民等により現在まで継承されている。



関連文化財群7 近代化がもたらした別邸文化と文化人ゆかりの地

明治20年（1887）の国府津駅への鉄道延伸を契機に、小田原は保養地・別荘地として注目を集め、政治家・軍人・実業家らが次々と別邸を構え、あるいは居住した。別邸文化を伝える建造物や庭園が今も残る。



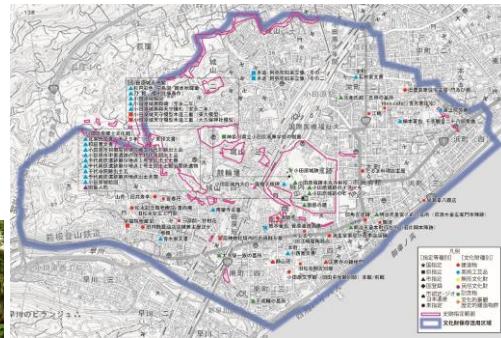
関連文化財群8 地域に根付いたなりわいと多彩な民俗文化

温暖で穏やかな気候と豊富な水を生かした農業、相模湾の海の幸を生かした漁業、豊富な森林資源を生かした林業などの産業が今も行われ、伝統工芸や名産品も継承されている。また、文化的交流により根付いた民俗芸能も伝えられている。



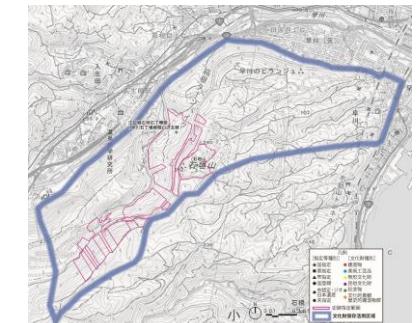
文化財保存活用区域1 小田原城周辺区域

小田原城とその城下町では、人々の暮らしの中から様々な産業や名産品が生み出され、信仰に始まる風習が有形・無形の文化財となり現在に伝わっている。近代以降は、多くの別邸が設けられた。



文化財保存活用区域2 石垣山・江戸城石垣石丁場跡周辺区域

小田原合戦の舞台である石垣山は、総石垣の城の姿がよく残り、江戸時代に設けられた江戸城石垣石丁場跡も手つかずの遺構が残つておおり、往時の姿を偲ぶことができる。



構成する文化財の概要

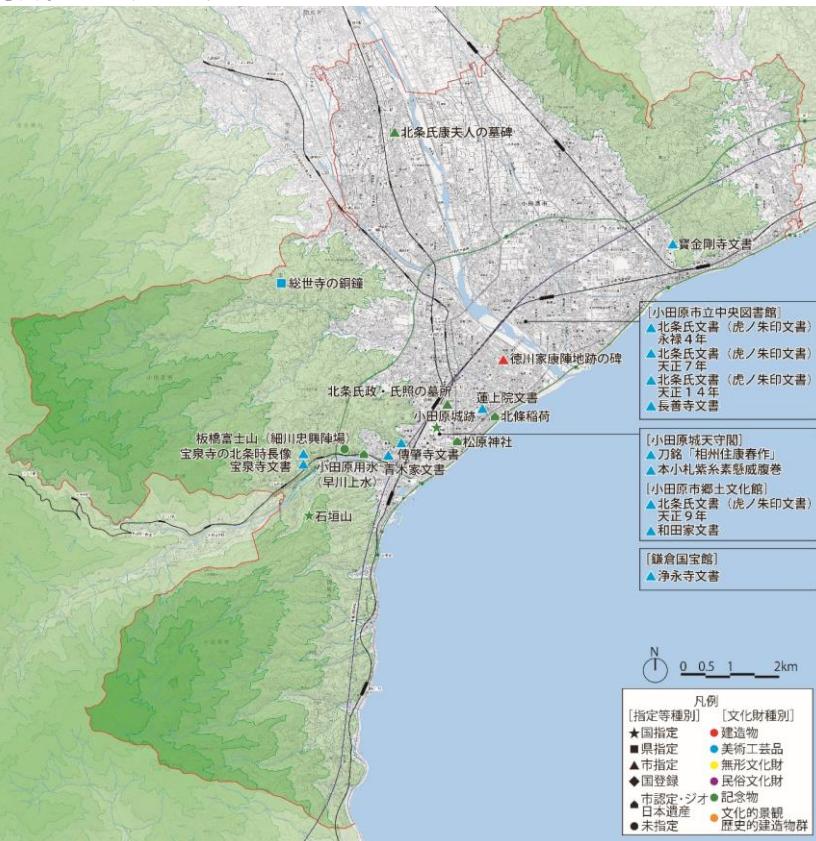
・北条氏に関連する文化財

小田原城は北条氏により拡大・発展を遂げ、総構の完成により中世最大級の城郭となった。市内には、北条氏ゆかりの寺院が点在しており、北条氏政・氏照の墓所、北条氏康夫人の墓碑などが残る。その他にも、北条氏による領国支配の様相を伝える文書が、寺社や小田原城天守閣をはじめとする公共施設に残っている。こうした資料は戦国時代の小田原の様相を現在に伝えている。

・小田原合戦に関連する遺跡

北条氏は、豊臣秀吉との戦いに備え、城と城下町を全部包み込んだ総構を造った。小田原城に籠城する北条氏に対して、豊臣秀吉が小田原全体を見下ろせる場所に築いたのが石垣山である。小田原合戦には、徳川家康をはじめ全国の大名が参陣した。徳川家康陣地跡の碑や豊臣秀次が総世寺に寄進した銅鐘など、小田原合戦に参陣した武将ゆかりの遺跡や資料も残されている。こうした資料は、戦国時代の終焉を告げた小田原合戦の様相を現在に伝えている。

構成文化財の分布図



北条氏文書（虎ノ朱印文書）



小田原用水（早川上水）



総世寺の銅鐘



課題

- ・史跡小田原城跡の調査と整備が十分ではない
- ・史跡石垣山の調査と整備が十分ではない
- ・史跡の維持管理が必要
- ・有形文化財の保存と活用が十分ではない
- ・観光などと連携した一体的、包括的な情報発信が十分ではない

方針

- ・史跡小田原城跡の調査・整備
- ・史跡石垣山の調査・整備
- ・史跡の維持管理
- ・有形文化財の保存・活用の推進
- ・観光と連携した一体的、包括的な情報発信や活用事業の促進

主な措置

④-6 史跡等管理活用事業

石垣山や総構等の除草や樹木剪定・伐採などの管理のほか、トイレ清掃などの便益施設の維持管理を行う。

【措置主体】行政、所有者 【実施期間】R8～R18

④-11 天守閣管理運営事業

国指定史跡小田原城跡に所在する小田原城天守閣・常盤木門及び歴史見聞館などを有料入館施設として公開するほか、特別展の開催、展示改修等の整備などを行う。

【措置主体】行政、専門家、所有者 【実施期間】R8～R18

④-13 観光PR事業

観光PR動画や情報掲載、パンフレット等を作成・公開し、国内外に広く小田原の魅力を発信する。

【措置主体】行政、専門家 【実施期間】R8～R18